

# データの力を引 き出す

世界1,500 人の IT 部門意思決定  
者が、データの価値を引き出すための課  
題と成功要因を明かす

**VERITAS™**

The truth in information.

## はじめに

企業のデータは、素晴らしいビジネスチャンスをもたらしますが、大きな課題も内包します。データは、新しい市場の創出、収益の増大、新たな機会の推進により、ビジネスを変革する可能性を秘めています。同時に、データ漏えいにより企業の評判に傷が付いたり、サービスの中断により顧客がアカウントにアクセスできず不満を募らせるなど、大きな課題も生み出します。しかし、企業のデータが適切に管理されていれば、そこには無限に近い可能性があります。

この可能性に向かって、近年、IT 部門は全社的なビジネス目標に合わせて IT 環境の簡素化、コスト削減、クラウド活用などのさまざまな取り組みを行い、データの価値をさらに引き出そうとしてきました。しかし、賢い企業はこれらのアプローチは以下のような意図しないマイナスの結果を生み出すことに気づいています。

- 柔軟性に欠ける複雑性。これは IT 環境のインフラ簡素化の副産物としてしばしば現れます。この課題の主な要因は、機能特化型のポイントソリューションの導入であり、インフラの迅速な拡張や対応を妨げます。
- 非効率的な出費。これはデータの増大に対応するために、継続的に追加のストレージを購入した結果です。しかし、本当の問題は、データストレージの不足ではなく、不十分なデータ管理であるため、多くの場合、誤った問題解決方法です。結果として、本当は必要でないストレージハードウェアに必要なお金をつぎ込むこととなります。
- データ損失の可能性。これは企業がクラウドプロバイダのデータ保護責任を明確に理解しないまま、クラウドにデータを移行した場合に生じます。同様に、綿密な移行戦略なしにクラウドに移行した場合も、データが十分に保護されない可能性があり、情報漏えいにつながるおそれがあります。

本当の問題は効果のないデータ管理であり、これは IT 部門だけに影響がある単なるテクノロジーの問題ではなく、認識する必要があります。不十分なデータ管理が企業全体に影響を及ぼすということを認識している企業は増加しており、それらの企業はデータの価値を引き出すために既存のプロセスを変革する方法を模索しています。

Vanson Bourne 社が実施した、世界15カ国、1,500人のIT部門意思決定者とデータ管理者を対象とした調査を見ると、効果のない日々のデータ管理は効率性、生産性、収益性に重大な影響を与え、コストが増大する結果となることが確認できます。このレポートでは、調査を分析するとともに、データ管理の課題に関するIT責任者の率直な考えを示し、企業が統合データ管理を実現するための方法を説明しています。

## 効果のないデータ管理の本当のコスト

効果のないデータ管理は、壊滅的な影響をもたらすおそれがあります。企業はデータ管理の課題に苦しみ中で、年間200万ドル以上を失っていると試算しています。IT責任者の36%がサイロ化されたデータ管理プロセスのせいで従業員の効率性が下がっていると回答し、38%が効果のないデータ管理プロセスが原因で戦略的意思決定が遅れていると回答しています。

## データ管理とは？

この調査では、「データ管理」とは、データ保護、データ回復力、データコンプライアンスなどのさまざまな重要な機能を総称しています。

このレポートでは、しばしば「統合データ管理」に言及していますが、これは上記のプロセスが連携し、簡単に共有でき、従業員が苦勞なく協力できることを意味します。

逆に、効果のないデータ管理は、統合されていないテクノロジーサイロの上で行われています。統合されていないデータ管理のアプローチの悪影響は甚大であることが、調査に参加したIT部門の意思決定者の回答で裏付けられました。

IT部門の意思決定者は  
**2時間/1日あたり**  
必要なデータを探すために浪費しています

特に、機密情報を見つけ管理するために頻繁にサービス要求を行うITプロフェッショナルにとって、生産性への影響は重要です。EUの一般データ保護規則(GDPR)などの最近のデータ保護法により、企業が特定の情報を削除するためにはそれを見つけ出すことが最重要であるという状況が生まれました。たとえば、IT管理者が顧客から個人情報の開示請求を受け、個人データのすべてのインスタンスを見つけ出して削除するというのは珍しいことではありません。これはほんの一例であり、データ管理が統合されていないと、こうした依頼に膨大な時間を費やすことになり、さらに顧客の個人データを見つけ出して永久に削除できない場合には訴訟を受けたり高額な罰金を支払うことになります。

企業は年間  
**200万ドル**  
をデータ管理の課題への  
取り組みに費やしています

## 日々のデータ管理の課題の影響

調査対象の IT 責任者の 97% は、日々のデータ管理の課題は自社に以下のような大きな影響を与えていると回答しています。

- ・ 戦略的意思決定の遅れ
- ・ 新しい収益機会の逸失
- ・ コスト削減への制約
- ・ 新しい製品およびサービス開発の遅れ

## 効果のないデータ管理による長期的損失

企業は長期的な損失のリスクも抱えています。95% が、データ管理の課題によって以下のような広範な影響を受けたと回答しています (図 2 参照)。

- ・ 運用コストの増加
- ・ 従業員の生産性と効率性への悪影響
- ・ 俊敏性の欠如
- ・ 競争力の欠如
- ・ データセキュリティの脅威に対する脆弱性の増大
- ・ 顧客の不満の増加

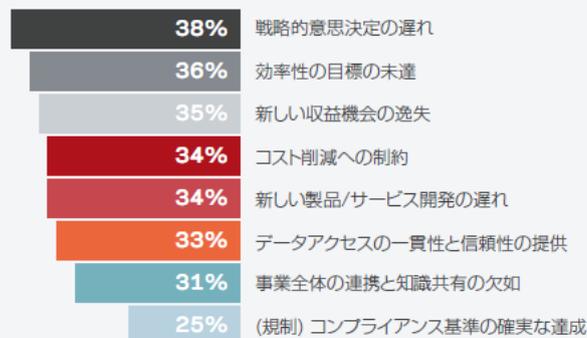


図 1

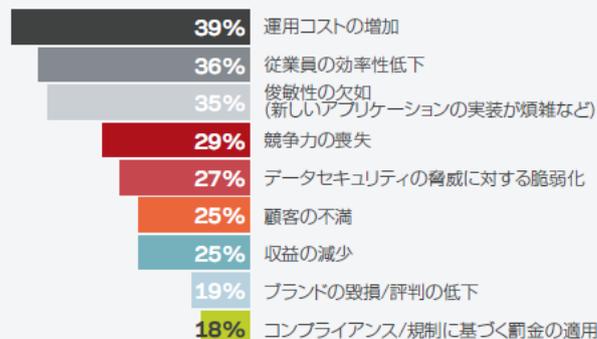


図 2

## データ管理機能の統合に関する企業の考え

自社がデータ管理について戦略的かつ完全に統合されたアプローチを採用していると答えたのは回答者の 29% のみでした。これは、大多数がサイロ化されたアプローチをとっており、異なるデータ管理ソリューションを統合するために苦労していることを示唆しています。インフラのサイロ化が起こる原因の多くは、機能特化型の統合されていないポイントソリューションやデータストレージリポジトリを長年にわたり次々と追加してきたことにあります。

## データライフサイクルの全段階を統合

データが「ゆりかごから墓場まで」移り変わっていくという長期的な視点を持ち、ライフサイクルのどの段階がサイロ化された統合されていないプロセスにつながるのかを理解することも重要です。たとえば、データは最初、アプリケーションがアクセスするために特定の場所に保存されます。次に、バックアップとリカバリが必要になった時のため、2 つ目の場所にコピーされます。データは開発やテストのためにプロビジョニングされたり、意思決定のための分析に使用されたりもします。コスト最適化のために低コストストレージに移され、最後は廃棄または削除されます。データのライフサイクル全体でデータを処理する各機能を統合させなければ、データを包括的に管理するのは実質的に不可能です。統合されていないと、データ管理に無駄が生じ、柔軟性のない非効率的なものになります。その結果、GDPR のような規制によって罰金が科されることになります。

統合されていないデータ管理が引き起こす大きな問題の 1 つは、企業のすべてのデータがほぼ同じように取り扱われているということです。その結果、今回の調査で IT 部門の意思決定者が回答したような困難な課題が生じています。データを効果的に管理するために、企業はデータを深く理解する必要があります。たとえば、どのファイルが財務諸表の最新バージョンであるか、あるいは特定の顧客データを含んでいるかを把握する必要があります。このためには、最後にアクセスがあった日時、企業にとっての相対的な重要性、アクセス可能なユーザーなど、データの重要な要素に関する理解が必要になります。(「企業のデータを理解するうえで重要な9つの質問」を参照)

### 企業のデータを理解するための重要な

#### 9 つの質問

- どこにありますか?
- 作成からどれほど時間が経過していますか?
- 最後に更新されたのはいつですか?
- 誰がアクセス権を持っていますか?
- 保持期間はどれくらいですか?
- コンプライアンス規制の対象ですか?
- 誰がアクセスできますか?
- 重要度はどれくらいですか?
- このデータをパブリッククラウドストレージに保持することはできますか?

## データ管理の課題を生じさせる共通の問題

これらの課題を解決するには、まず適切なデータ管理を実施することから始めます。しかし、調査対象の IT 責任者の 93% がデータ管理の取り組みを実施する上でさまざまな課題を抱えています。たとえば、雑多なデータ管理システムの使用、コストの増大、データの価値を利用するための適切なスキルとテクノロジーの欠如などです。また、58% がデータのフットプリントが複雑でデータの価値を十分に引き出せないと回答しています。さらに、46% が統合が不十分なデータ管理機能によって生じる結果について社内の認識や支援が不足していると回答しており、変化を推進する上で苦しい戦いを強いられているケースが多いことがうかがえます。

自社の日々のデータ管理で直面している課題について、IT 責任者の回答には以下が含まれていました (図 3 参照)

- ・ 雑多なデータ管理システムが存在し管理が困難
- ・ コストの高騰によりデータ管理が困難
- ・ 複雑なデータソースが多数あり分析が困難
- ・ データを最大限活用するための適切なスキル/テクノロジーの欠如

## 改善すべき分野

当然のことながら、企業にとって重要な以下の領域でも悪影響が出ています (図 4 参照)。

- ・ データコンプライアンスの確保
- ・ データセキュリティとリスクの管理
- ・ データの可視性と制御の改善
- ・ データアクセスの速度と信頼性
- ・ ビジネス機能全体でのデータ共有のしやすさ

**58%**



**がデータのフットプリントが  
複雑でデータの**

データの価値を十分に引き出せないと回答しています。

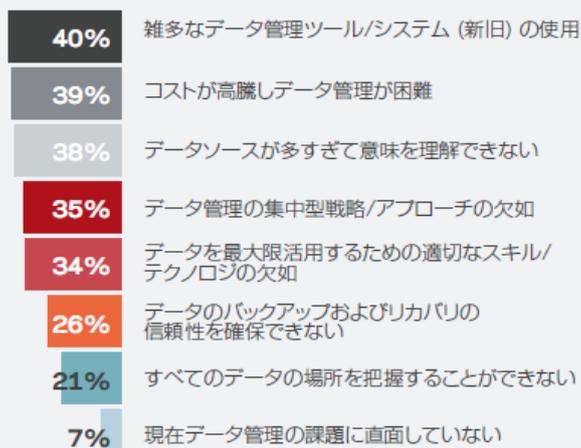


図 3

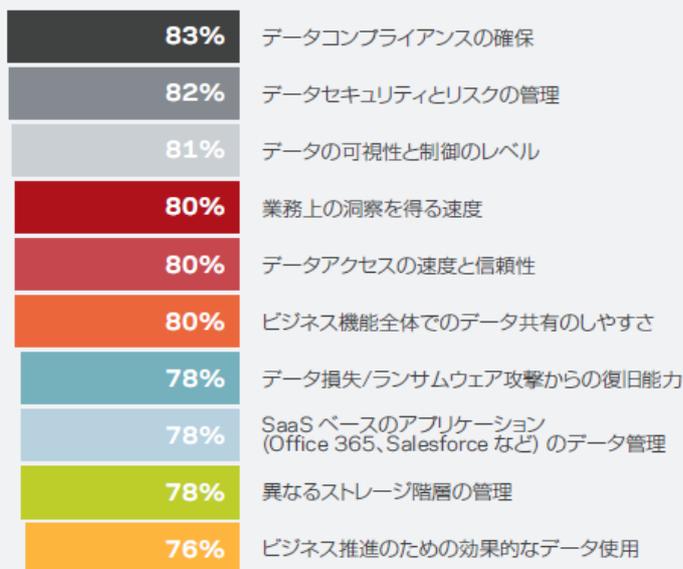


図 4

## より効果的なデータ管理のメリット

前述の課題が深刻で解決できないと思えるようであれば、効果的なデータ管理に取り組む企業はさまざまなメリットを実現し、貴重な競争上の優位性を得られていることを理解することが重要です。メリットとは以下のようなものです (図 5 参照)。

- ・ データコンプライアンスの強化およびデータセキュリティリスクの低下
- ・ コストの削減
- ・ 顧客満足度の向上
- ・ 生産性の向上

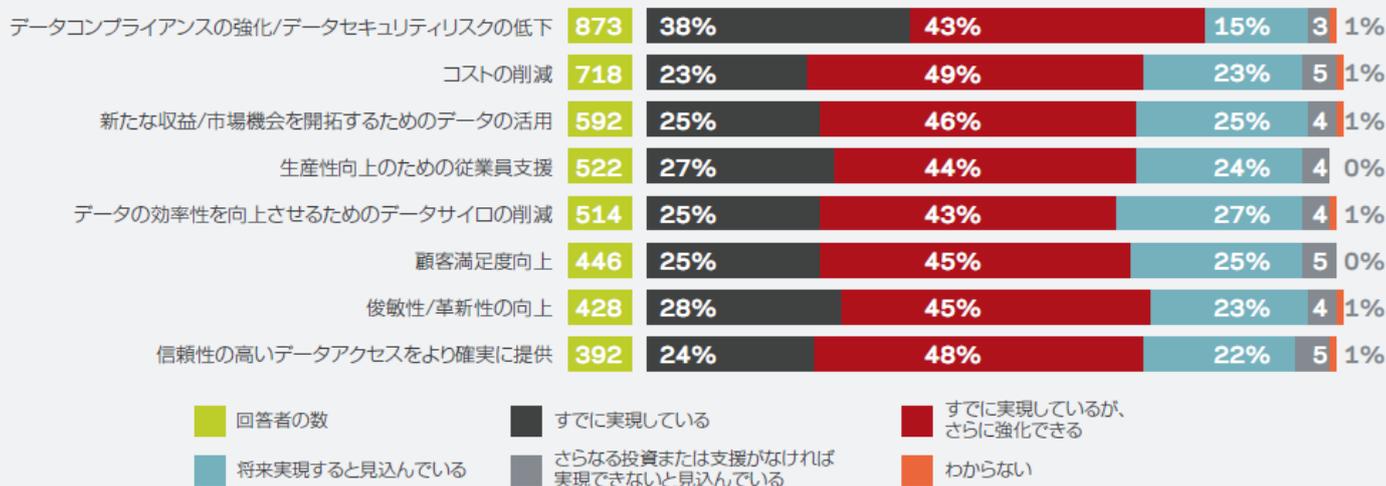


図 5

さらに、IT 責任者は企業のデータ管理機能を効果的にするには大きな経済的理由があると考えており、投資額に対する平均 ROI は 2.18ドルになると見込んでいます。

### 企業のデータ管理のメリットを実現するための重要な成功要因

企業がデータ管理のメリットを実現するためにはどのような要素があるでしょうか。完全なデータ統合を実現した企業は、2 つの重要な点に集中することで違いを生んでいます。それは、データ管理に戦略的アプローチをとること、そして適切なテクノロジーを採用することです。

#### 戦略的な考え方の推進

データ管理の取り組みに大成功した企業は、それがすべての必要なデータ管理の機能を 1 つに統合するという戦略的意思決定であることを認識しています。つまり、データの保護、分類、プロビジョニング、分析、そして最終的には破棄またはアーカイブに至るライフサイクル全体で、どのようにデータを管理するのかを慎重に検討するということです。このアプローチは、これらの機能をサポートするためにポイントソリューションを使用することとはまったく異なります。そのようなサイロ化されたアプローチは、データの一部を隔離することになり、このレポートで説明してきた課題につながってしまいます。

効果的なデータ管理を推進する戦略的な取り組みには、力を持った上級管理職の支援 (37%)、データ管理テクノロジーに投資するための適切な予算、新たな取り組みを応急的に実施するのではなく体系的かつ段階的なアプローチをとること(37%) が含まれます (図 5 参照)。

#### 適切なテクノロジーの採用

適切なテクノロジーの採用も、データ管理のメリットを実現するための重要な成功要因となっています (43%)。さらに、異種混在環境での実績がある適切なパートナーと連携すること(40%) が確かな成功につながります。

企業にとって最も大きな機会となるのが、データ管理の集中型戦略の採用 (37%) です。この戦略はデータセンターからクラウドに至るさまざまな種類とさまざまな世代のインフラに対応しつつ、同時に企業のデータに関するグローバルな可視性と管理を可能にする柔軟なテクノロジースタックを備えています。

#### 一部の企業のデータが完全に、またはほぼ統合されている主な理由

- より良いデータ管理のために集中型戦略を採用している
- 適切なテクノロジーを導入している
- 複雑な異種混在環境で実績があるパートナーと提携している
- 力を持った上級管理職のサポートがある
- データ管理の取り組みに投資するための適切な予算がある

これらの回答は、完全な統合は適切なテクノロジー、インフラ、サポートがあれば実現できることを示しています (右図 6 参照)。

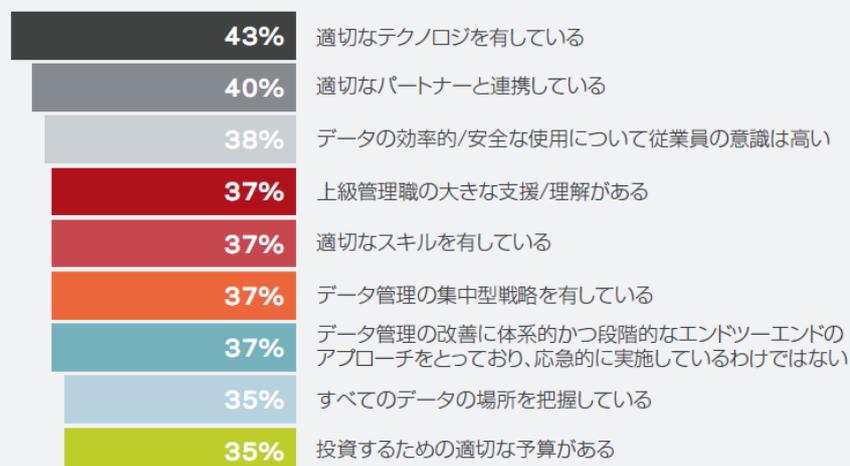


図 6

## より良いデータ管理の方法

これらの調査結果が示すように、データ管理の取り組みに関しては、いくつかの成功もありますが、さらに改善の余地もあることがわかります。データ管理に関して綿密な戦略を立案し、うまく連携するテクノロジーを採用した企業は、データの価値を引き出すことに成功する可能性が高いです。また、このような企業は、これらの段階を踏まない企業に比べて生産性、収益性、効率性の面での向上を実現できる可能性も高いといえます。

## データによるデータ管理

戦略的なアプローチをとる場合の次のステップは、データによるデータ管理です。企業はビジネスのさまざまな側面を管理・統制するためにデータを使用しているのですから、データもデータで管理します。データ管理の課題に対応する新しい方法ですが、有望な方法です。

データによるデータ管理には統合された以下の 3 つのプロセスがあります。

- 1 データの分類。分類はデータの内容、場所、使用者、存在するコピーの数、価値の有無などを理解する上で有用です。基本的に、分類はこのレポートの 3 ページに記載されている「データを理解するための重要な 9 つの質問」に回答する際に役立ちます。
- 2 ポリシーの有効化。企業はデータ分類により得られた洞察により、データのインテリジェントな理解、保護、維持を行うことができます。
- 3 自動化。データの量は、手作業で管理するには多すぎます。1 ペタバイトの企業データにはおよそ 30 億のファイルがあり、人間の能力で管理できる範疇を超えています。人工知能と機械学習を用いた自動化により、IT 部門の従業員ができないタスクを実行し、企業データの可能性をさらに引き出すことができます。

これらのステップを踏むことにより、企業は環境を簡素化し、コストを削減し、データからさらに価値を引き出すことができます。そして、データが持つ驚くべきビジネスチャンスを活用する準備が整います。

## 付録 A

調査方法 — 10 月から 11 月にかけて、米国、イギリス、フランス、ドイツ、スイス、アラブ首長国連邦、カナダ、メキシコ、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、中国、日本、韓国の合計 1,500 名におよび IT 部門の意思決定者およびデータ管理者に対してインタビューを実施

IT 責任者はデータ管理への投資には大きな見返りがあると見込んでいます。投資額に対する平均 ROI は 2.18 ドルになると見積もっています。



## ベリタスについて

Veritas Technologies はエンタープライズ向けデータ管理市場のグローバルリーダーであり、企業のミッションクリティカルなデータを保護するためのソフトウェア / ソリューションを提供しています。Fortune 100 企業の 97 パーセントを含む世界有数の企業が、データのバックアップ / リカバリ、データの保護と可用性の維持、障害対応、法令順守の実現のためにベリタスのソリューションを導入しています。企業にデジタルエコノミーへの対応が広まる中、ベリタスは、そこに潜むリスクを軽減し、企業にとって最も重要なデジタル資産である「データ」を活用できるよう最新のテクノロジーを提供します。ベリタステクノロジーズ合同会社は、Veritas Technologies の日本法人です。詳細は、[www.veritas.com/content/veritas/japanese/jp-ja](http://www.veritas.com/content/veritas/japanese/jp-ja) をご覧になるか、Twitter (@veritastechllc) でフォローしてください。

ベリタステクノロジーズ合同会社  
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-11-44  
赤坂インターシティ4 階  
■電話: 0120-907-000  
(IP 電話からは 03-4531-1799)  
[veritas.com/ja/jp](http://veritas.com/ja/jp)

各国オフィスとお問い合わせ先については、弊社の  
Web サイトを参照してください。  
[veritas.com/ja/jp/company/contact](http://veritas.com/ja/jp/company/contact)

**VERITAS**<sup>™</sup>  
The truth in information.

V0850 2/19